

2018年3月期 決算説明会

扶桑化学工業株式会社

2018年5月10日
東証第一部（4368）



- | | |
|--------------------|-------|
| I . 2018年3月期決算概要 | 武川取締役 |
| II . 事業の概況 | 赤澤 社長 |
| ・ライフサイエンス事業 | |
| ・電子材料および機能性化学品事業 | |
| III . 2019年3月期業績予想 | 藤岡 会長 |

I. 2018年3月期決算概要

2018年3月期（累計期間）決算概要



(単位：百万円)

	当期実績	前期実績	前年同期比		10/31公表 修正計画	計画比	
			増減額	増減率		乖離額	乖離率
売上高	40,221	36,224	+3,997	+11.0%	39,700	+521	+1.3%
営業利益	10,537	9,867	+669	+6.8%	10,550	△12	△0.1%
経常利益	10,367	10,038	+328	+3.3%	10,600	△232	△2.2%
当期純利益	6,592	6,895	△303	△4.4%	7,320	△727	△9.9%
償却前営業利益	12,150	11,209	+941	+8.4%	12,259	△109	△0.9%
一株当たり 当期純利益	185.6 円	194.2 円		△8.5 円	206.1 円		△20.5 円

*** 5期連続での増収**

セグメント別売上高・営業利益【前期比】



(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	前期 ('17/3期)	当期 ('18/3期)	前年同期比		前期 ('17/3期)	当期 ('18/3期)	前年同期比	
			増減額	増減率			増減額	増減率
ライフサイエンス事業	22,050	24,318	+2,268	+10.3%	3,979	3,382	△597	△15.0%
電子材料および 機能性化学品事業	14,174	15,902	+1,728	+12.2%	6,996	8,280	+1,283	+18.3%
(調整額)	—	—	—	—	△1,108	△1,125	△16	—
計	36,224	40,221	+3,997	+11.0%	9,867	10,537	+669	+6.8%

2018年3月期四半期別セグメント別業績推移



(単位：百万円)

2018年3月期

		1Q (4-6月)	2Q (7-9月)	3Q (10-12月)	4Q (1-3月)	上期 (4-9月)	下期 (10-3月)	通期 (4-3月)
売上高	当期	9,811	9,768	10,716	9,925	19,579	20,641	40,221
	前期	8,796	8,436	9,543	9,448	17,232	18,991	36,224
ライフサイエンス事業	当期	5,803	5,991	6,490	6,034	11,794	12,524	24,318
	前期	5,368	5,211	5,818	5,651	10,580	11,470	22,050
電子材料および 機能性化学品事業	当期	4,008	3,777	4,225	3,891	7,785	8,117	15,902
	前期	3,428	3,224	3,724	3,797	6,652	7,521	14,174
営業利益	当期	2,875	2,548	2,742	2,370	5,424	5,112	10,537
	前期	2,441	2,111	2,804	2,509	4,553	5,314	9,867
ライフサイエンス事業	当期	892	781	1,031	676	1,674	1,708	3,382
	前期	986	924	1,207	861	1,911	2,068	3,979
電子材料および 機能性化学品事業	当期	2,240	2,087	2,010	1,942	4,327	3,952	8,280
	前期	1,719	1,466	1,852	1,958	3,185	3,811	6,996
(調整額)	当期	△257	△319	△298	△249	△577	△548	△1,125

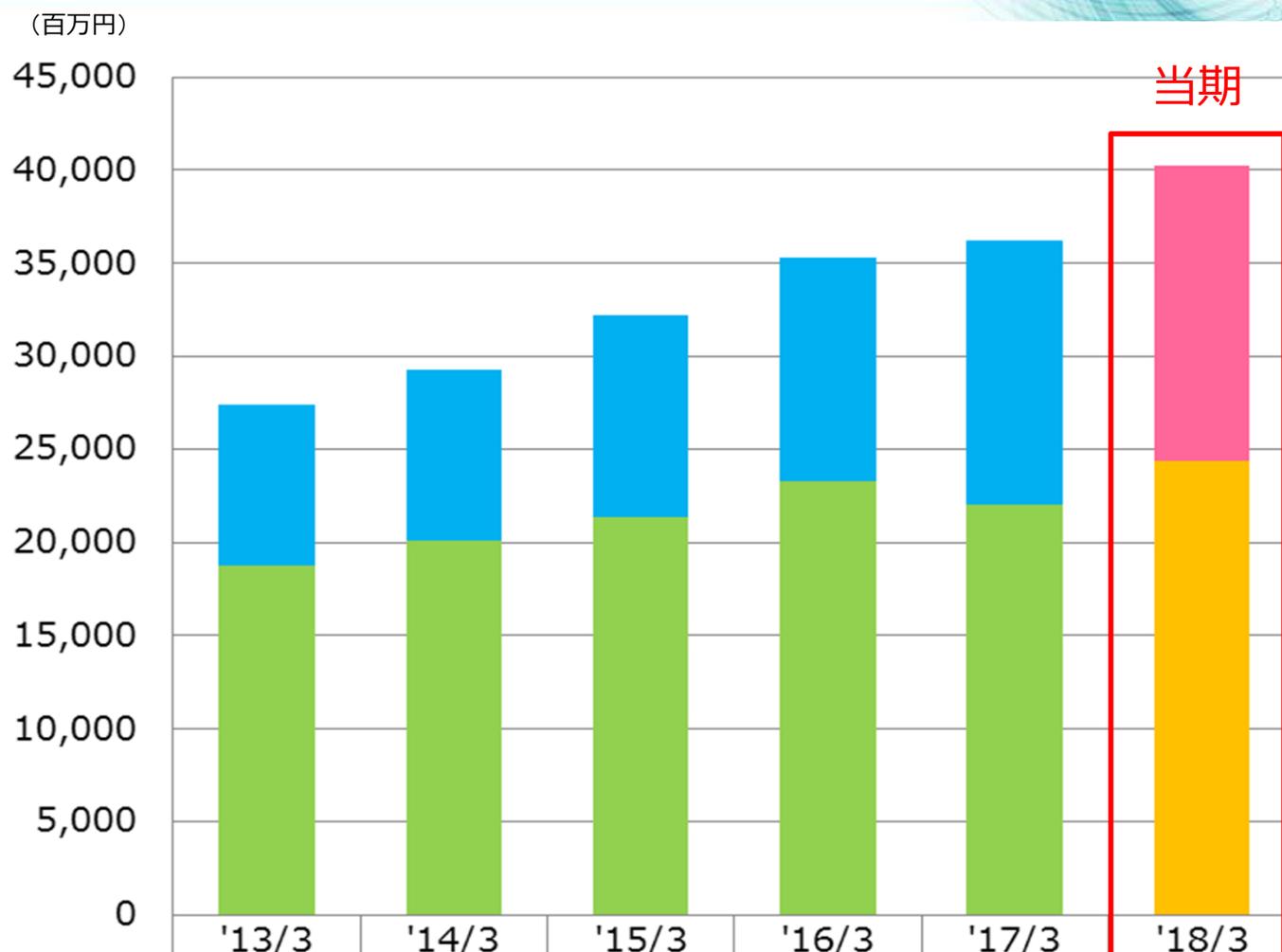
セグメント別売上高・営業利益【過去3年】



(単位：百万円)

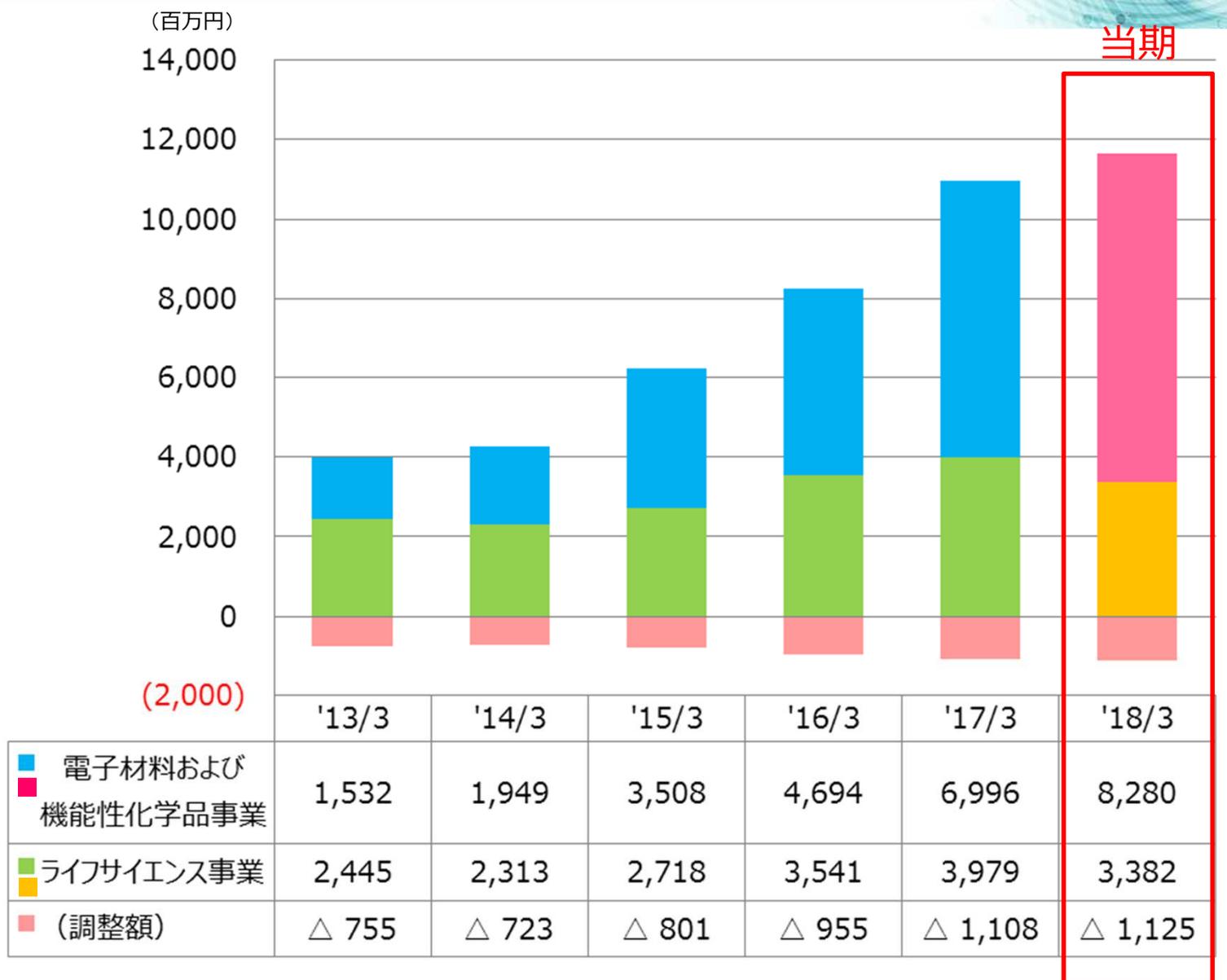
	'16/3期	'17/3期	'18/3期
売上高	35,298	36,224	40,221
ライフサイエンス事業	23,285	22,050	24,318
電子材料および 機能性化学品事業	12,012	14,174	15,902
営業利益	7,279	9,867	10,537
ライフサイエンス事業	3,541	3,979	3,382
電子材料および 機能性化学品事業	4,694	6,996	8,280
調整額	△955	△1,108	△1,125
売上高営業利益率	20.6%	27.2%	26.2%
ライフサイエンス事業	15.2%	18.0%	13.9%
電子材料および 機能性化学品事業	39.1%	49.4%	52.1%

セグメント別売上高推移

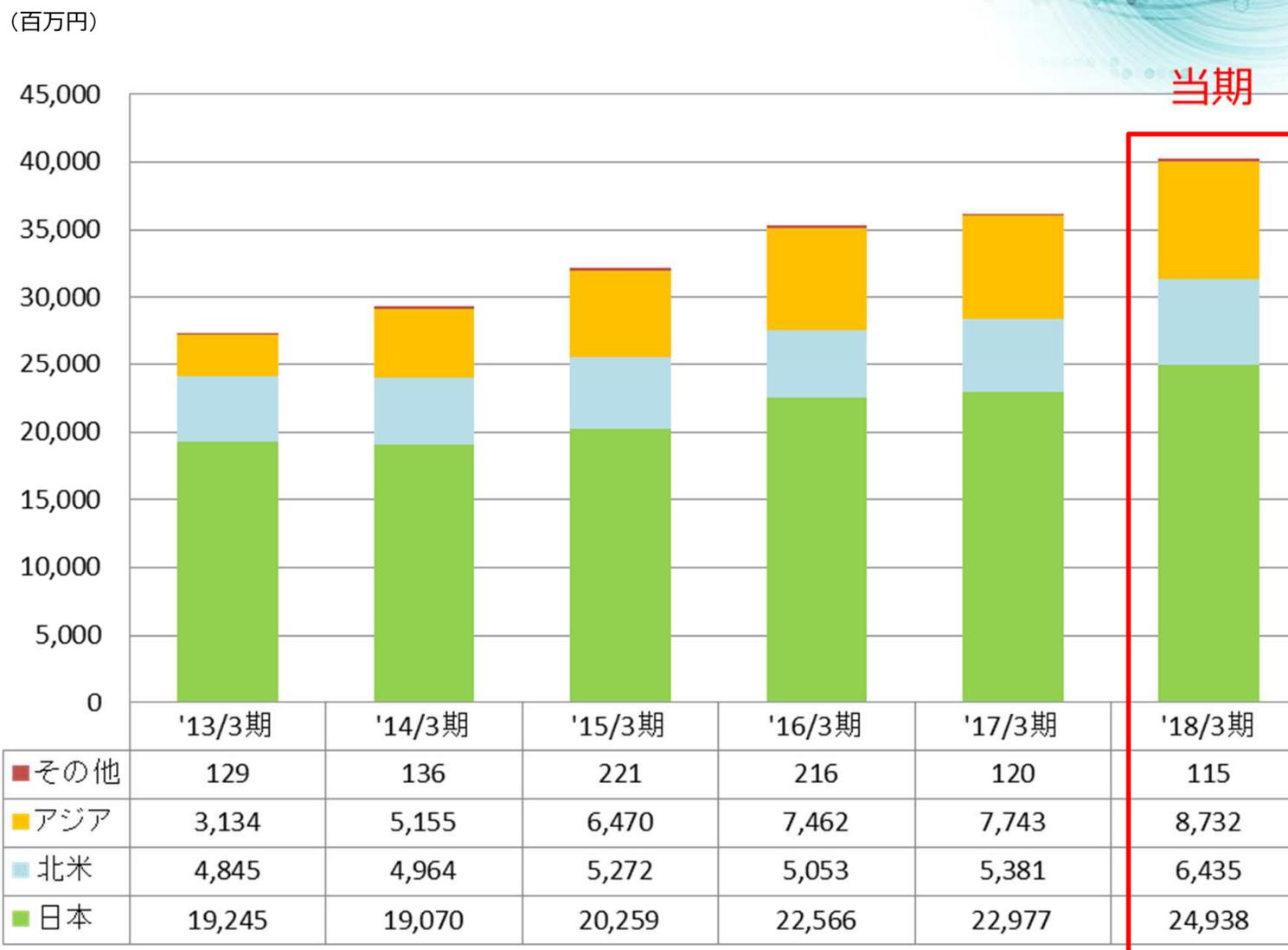


■ 電子材料および機能性化学品事業	8,569	9,237	10,853	12,012	14,174	15,902
■ ライフサイエンス事業	18,785	20,090	21,370	23,285	22,050	24,318

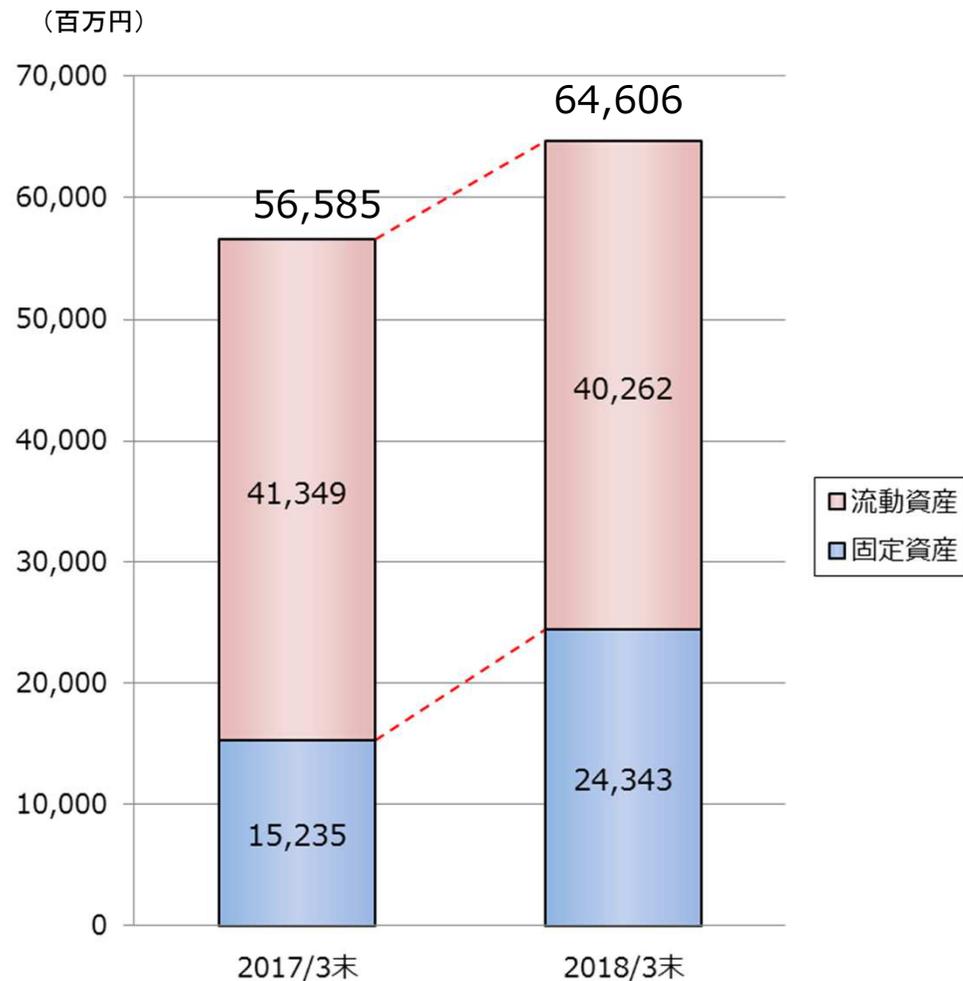
セグメント別営業利益推移



海外売上高推移



資産の状況



流動資産 (前期末比△1,087百万円)

- ・現預金の減少
- ・受取手形及び売掛金増加
- ・棚卸資産の増加

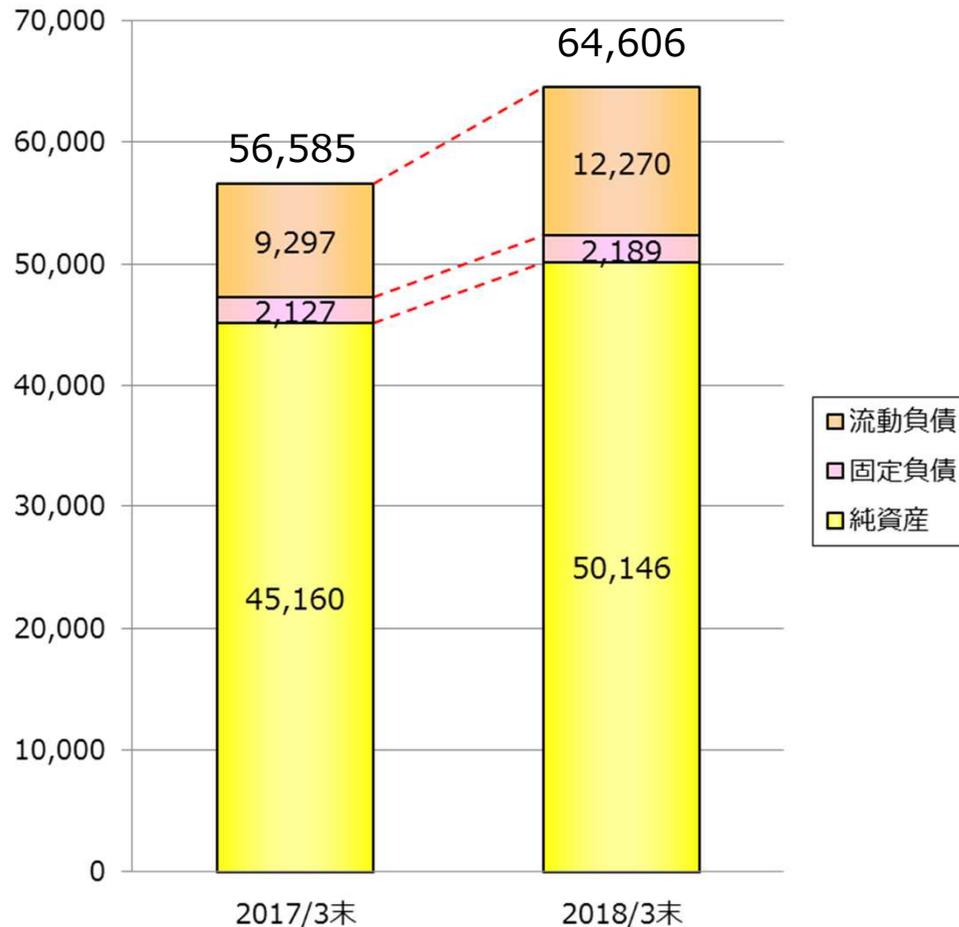
固定資産 (前期末比 +9,108百万円)

- ・建設仮勘定の増加
- ・機械装置及び運搬具の増加

負債・純資産の状況



(百万円)



流動負債（前期末比+2,973百万円）

- ・未払金の増加
- ・役員退職功労引当金の増加

固定負債（前期末比+61百万円）

純資産（前期末比+4,986百万円）

- ・利益剰余金の増加

キャッシュ・フロー計算書



(百万円)

	前期 ('17/3)	当期 ('18/3)
営業活動による キャッシュ・フロー	9,413	4,845
投資活動による キャッシュ・フロー	4,983	△8,024
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,533	△1,675
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△92	△200
現金及び現金同等物 の増加額	12,771	△5,054
現金及び現金同等物 の期首残高	11,214	23,985
現金及び現金同等物 の期末残高	23,985	18,930

営業活動によるキャッシュ・フロー

- ・売上債権の増加
- ・棚卸資産の増加
- ・仕入債務の減少

投資活動によるキャッシュ・フロー

- ・有形固定資産の取得
- ・事業譲受による支出

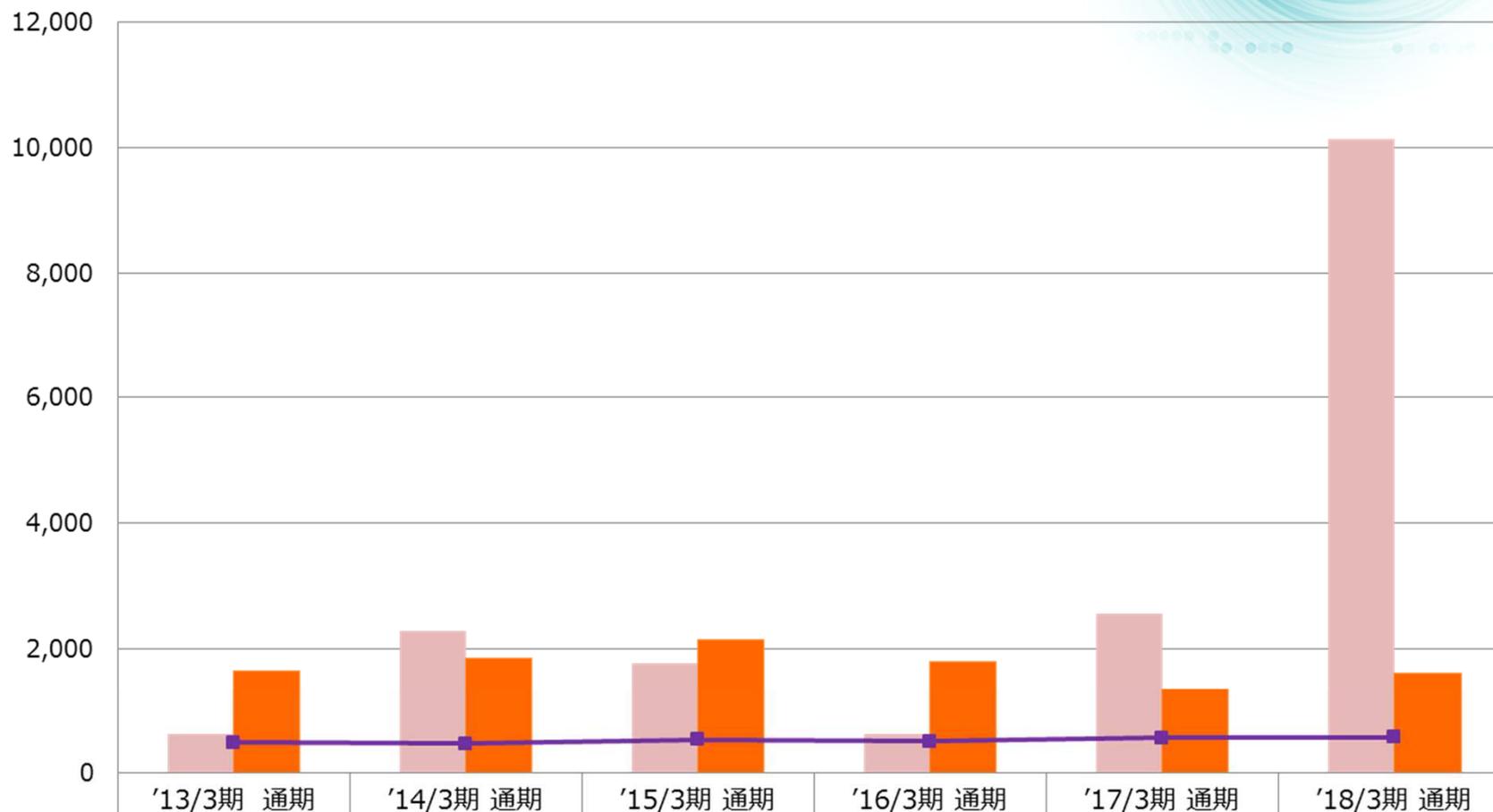
財務活動によるキャッシュ・フロー

- ・配当金の支払い

設備投資・減価償却費・研究開発費推移

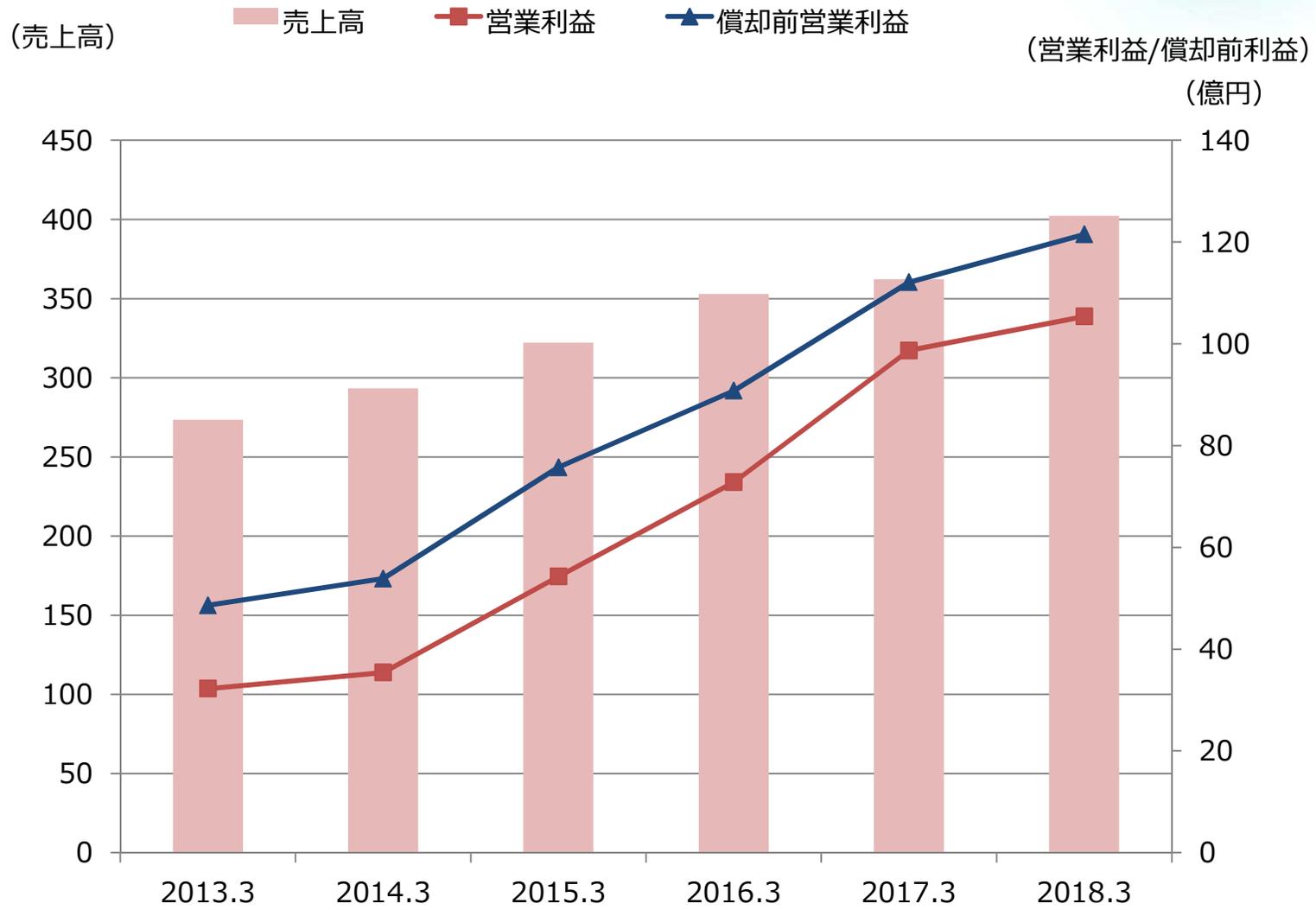


(百万円)

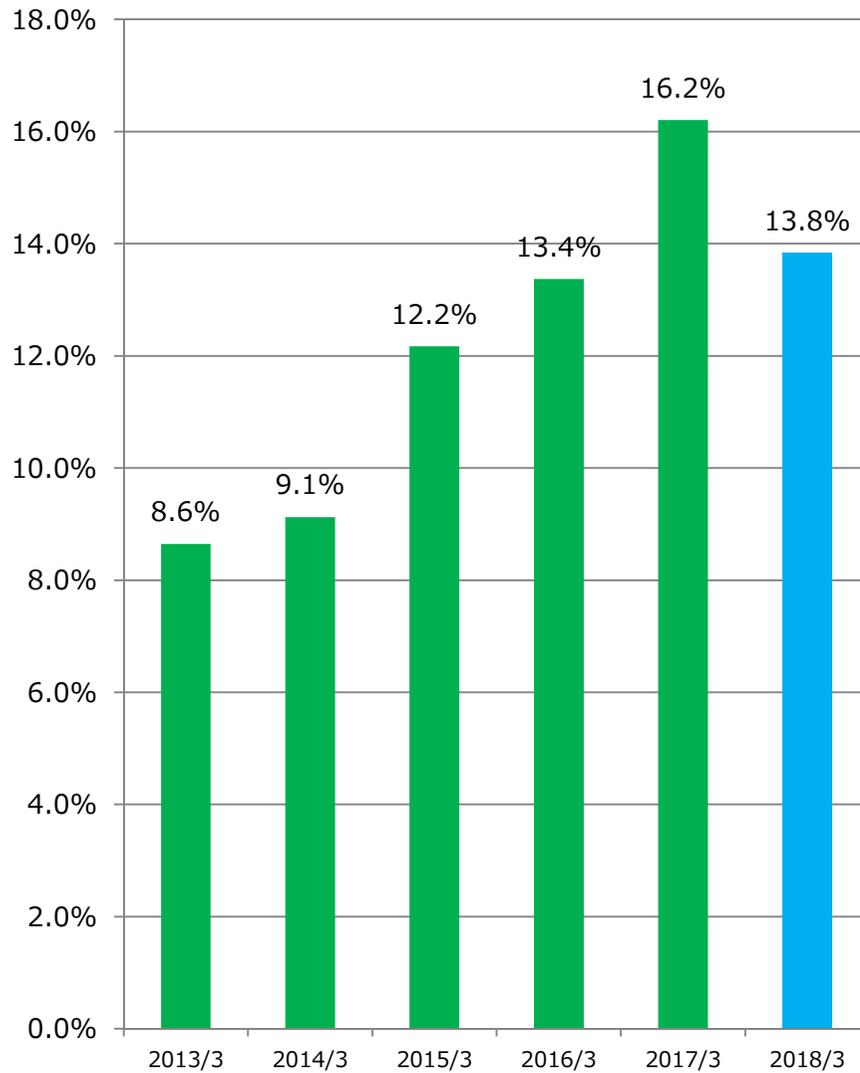


設備投資	625	2,288	1,771	632	2,556	10,136
減価償却費 (のれん償却含む)	1,636	1,845	2,147	1,798	1,341	1,613
研究開発費	489	471	540	512	563	572

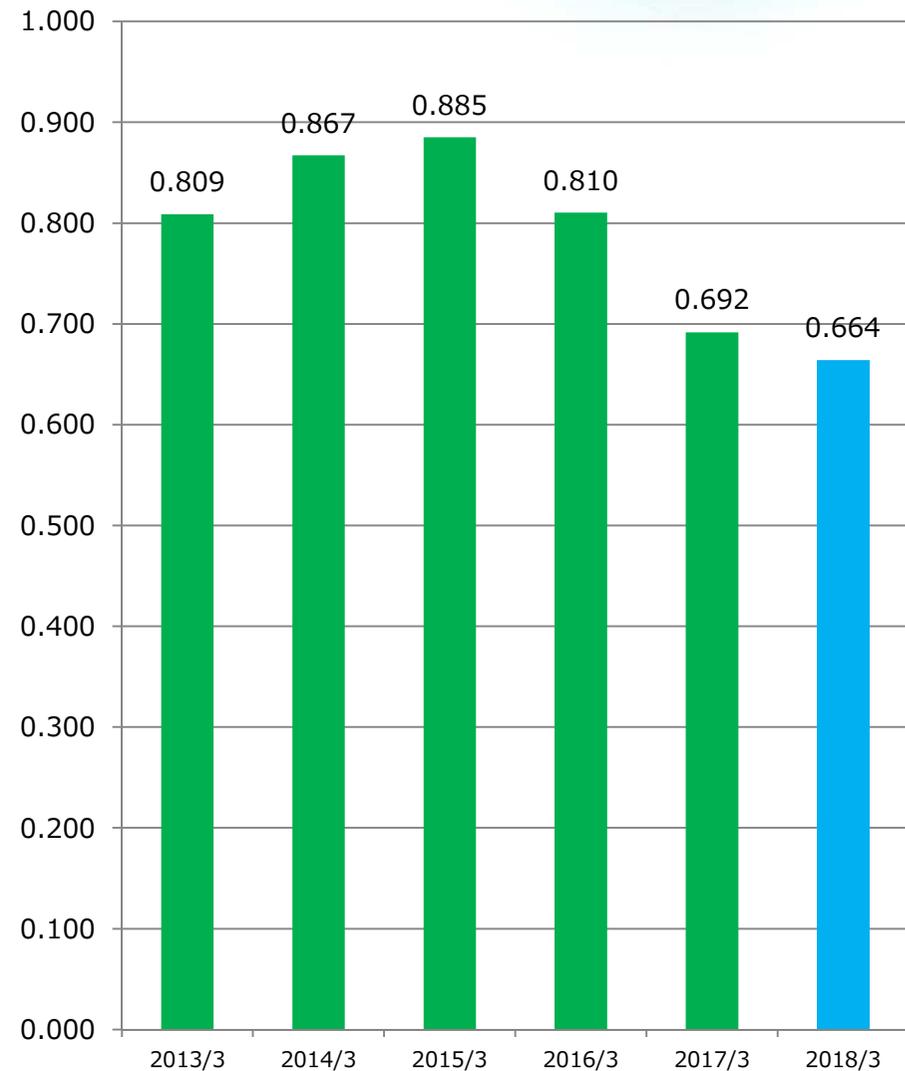
償却前営業利益



ROE (%)



総資産回転率



Ⅱ．事業の概況

ライフサイエンス事業

事業内容



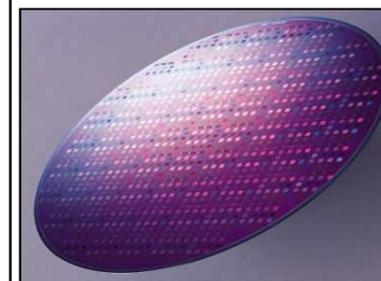
ライフサイエンス 事業

- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- 無水マレイン酸
- フマル酸類
- 乳酸類
- イタコン酸
- ビタミンC類
- 食品製剤類
- 化成品および製剤
- 海苔用活性処理剤
- その他果実酸



電子材料 および 機能性化学品 事業

- シリカ関連誘導品
 - ・超高純度コロイダルシリカ
 - ・高純度シリカナノパウダー
 - ・高純度オルガノシリカゾル
 - ・アルキルシリケート
- 高純度果実酸
- ファインケミカル
- その他機能性化学品



セグメント別売上高・営業利益



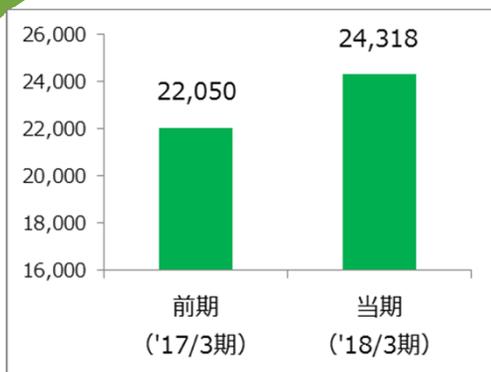
ライフサイエンス事業

(単位：百万円)

	前期 ('17/3期)	当期 ('18/3期)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	22,050	24,318	+2,268	+10.3%
営業利益	3,979	3,382	△597	△15.0%

売上高

営業利益



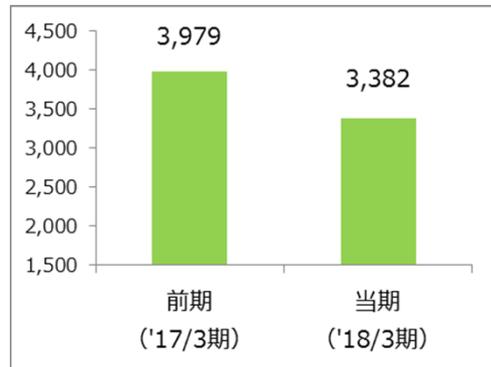
◇売上高

<増加要因>

- ・無水マレイン酸の販売好調
- ・フマル酸の販売好調
- ・ベンゼン価格上昇に伴う価格改定
- ・ビタミンCの価格改定

<減少要因>

- ・クエン酸類の販売微減



◇営業利益

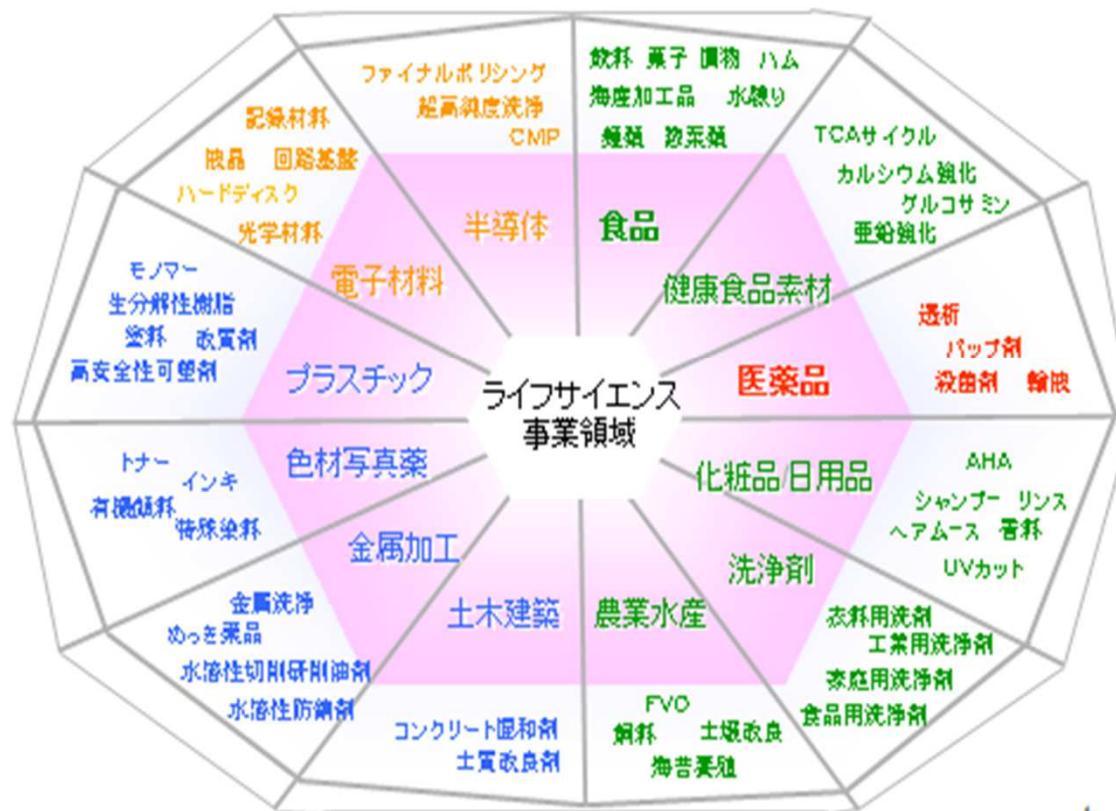
<増加要因>

- ・ビタミンCの価格改定

<減少要因>

- ・ベンゼン価格上昇による原料価格上昇
- ・円安による輸入品の仕入れ価格の上昇

事業領域



製商品数 650品目
得意先 700社 顧客 8,000社

重点施策



鹿島果実酸コンビナート
構想の実現

日本における
少子高齢化・人口減少

さらなるビジネスの拡大

鹿島事業所
リンゴ酸新プラント建設

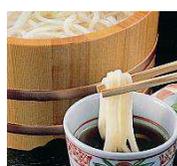
グローバル展開

新製品の開発／新たな
柱となるビジネスの創出

世界No.1のリンゴ酸メーカー
としての生産・販売体制の確立

アジア市場においてOne-Stop
食添製剤メーカーを目指す

農水畜産業向け新製品の上市
新分野の開拓・M&Aの推進



I. 拡大するリンゴ酸需要への対応

II. 国際的な品質規格に対応

2017年11月1日 鹿島事業所 開所

- 青島扶桑、タイ扶桑、PMPとの連携
扶桑ブランド(日本品質)で付加価値販売
- 伸びるアジア需要の取込
- 欧州市場での新章開始
FSSC22000取得をベースに
EPA協定発効:関税6.5%→0%(2019年)



FSSC22000の認証取得



国際食品安全マネジメントシステムであるFSSC22000の認証を取得
(大阪工場 DL-リンゴ酸の製造)



- ◆グローバル顧客・大手小売店チェーンへのアクセス
- ◆認証取得を、購入要件とする大手チェーンが増加
- ◆海外企業からの信頼性向上

- 国際的な食品安全スキーム
- GFSIベンチマーク承認規格
- 重大な食品リスクを最少化
- PDCAによる継続的改善
- 企業価値の向上や法令順守の推進

拡大する海外・アジア市場
グローバル顧客への販売拡大のチャンス

- *FSSC (The Foundation of Food Safety Certification : 食品安全認証団体)
国際的な食品安全を確保するための手法である「HACCP」を核として、食品安全の要求事項を広く網羅した「食品安全マネジメントシステム」
- * GFSI (Global Food Safety Initiative : 世界食品安全イニシアチブ)
世界的な食品の流通、製造のネットワークである、The Consumer Goods Forum(「TCGF」) 傘下の食品安全の推進母体

Ⅲ.コスト競争力の強化

① コスト削減

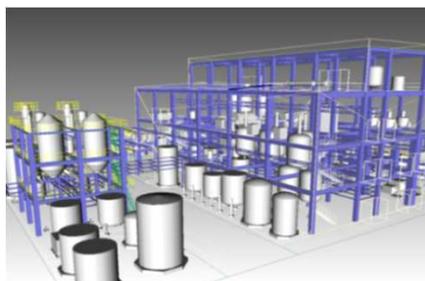
- ◆ 輸送費 ◆ 蒸気・電力費 ◆ 用水・排水費 ◆ 管理費

② 省人化対策

- ◆ 自動化 ◆ 新機種導入

③ 生産工程の革新

- ◆ 反応工程の完全連続化



グローバル展開



1. 中国

青島扶桑精製加工有限公司

- ◆ 高純度有機酸の製造等、高付加価値製品へのシフト
- ◆ 新規食品添加物製剤の開発
- ◆ 人件費高騰への対処として、生産設備の自動化促進
(電材) 半導体向け素材の開発、汎用コロイダルシリカの販売



2. 東南アジア

FUSO (THAILAND) CO., LTD.

< 単品類の拡販により売上の増大を目指す >

- ◆ 扶桑化学工業(日本)との連携
タイ産製品の輸出、高付加価値有機酸の販売
- ◆ 青島扶桑(中国)との連携
製菓業界等への販売強化

トライアングル体制で、
拡大する東南アジア市場
加工食品市場等を
取り込む

< 食品添加物製剤の拡販により利益の増大を目指す >

- 1) 日系及びタイローカルの手食品会社における新規採用
- 2) タイ周辺国への輸出



グローバル展開



青島扶桑、タイ扶桑との連携にて、各国の食品や食材に適した食品添加物製剤、及びバター・ブレッター（フライ惣菜の衣）などの食品素材の開発・製造を推進



食感改良剤

バター
ブレッター

日持向上剤



◆ 東京研究所 テストキッチン

3. 北米

PMP Fermentation Products, Inc.

- ◆ グルコン酸類の米国国産メーカーとしての実績と信頼
- ◆ 高品質な製品を食品用途にも拡大
- ◆ 競争力のある製品群で、確実に利益確保

<トピックス>



- 米国における食感改良剤・品質改良剤・調味料（製剤）などの食品添加物製剤のマーケティングをスタート
- 米国国際貿易委員会（ITC）及び米国商務省（DOC）へ「中国およびフランスからのグルコン酸ナトリウムに対するアンチダンピング提訴」を提出

農水畜産業向け新製品の上市



植物用ストレス耐性向上剤の開発



処理区

無処理区

◆ 大学等のアカデミアと連携 ◆
地球温暖化・異常気象（乾燥）
等による農作物・魚・家畜のストレス
耐性を向上し、成長をサポートする
新製品の開発に取り組む

農業



漁業



畜産



電子材料および 機能性化学品事業

事業内容



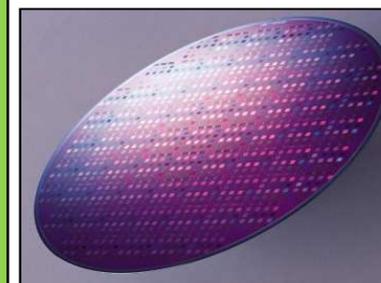
ライフサイエンス 事業

- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- 無水マレイン酸
- フマル酸類
- 乳酸類
- イタコン酸
- ビタミンC類
- 食品製剤類
- 化粧品および製剤
- 海苔用活性処理剤
- その他果実酸



電子材料 および 機能性化学品 事業

- シリカ関連誘導品
 - ・超高純度コロイダルシリカ
 - ・高純度シリカナノパウダー
 - ・高純度オルガノシリカゾル
 - ・アルキルシリケート
- 高純度果実酸
- ファインケミカル
- その他機能性化学品



セグメント別売上高・営業利益



電子材料および機能性化学品事業

(単位：百万円)

	前期 ('17/3期)	当期 ('18/3期)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	14,174	15,902	+ 1,728	+ 12.2%
営業利益	6,996	8,280	+ 1,283	+ 18.3%



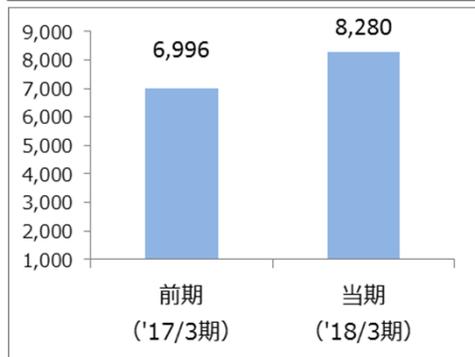
◇売上高

<増加要因>

- ・半導体市場好況による販売増
- ・最先端CMP用途での採用増
- ・ナノパウダー販売増
- ・中国でのコロイダルシリカ販売増
- ・円安

<減少要因>

- ・特になし



◇営業利益

<増加要因>

- ・売上増による増加
- ・稼働率向上による原価の低減
- ・主要材料の購買戦略による価格低下

<減少要因>

- ・人件費増
- ・積極的研究開発に伴う研究開発費増
- ・物流及び外部倉庫費用増

■ シリコンウエハポリッシング

- ◇最終研磨用途向け
→世界市場80%以上のシェア
- ◇一次・二次研磨向けにも展開



■ 半導体CMPスラリー

- ◇酸化膜 (SiO₂)
 - ・ 層間絶縁膜 (ILD)
 - ・ 素子分離 (STI)
- ◇メタル (W, AL, Cu…)
- ◇ポリシリコン、低誘電率膜 (Low-k)



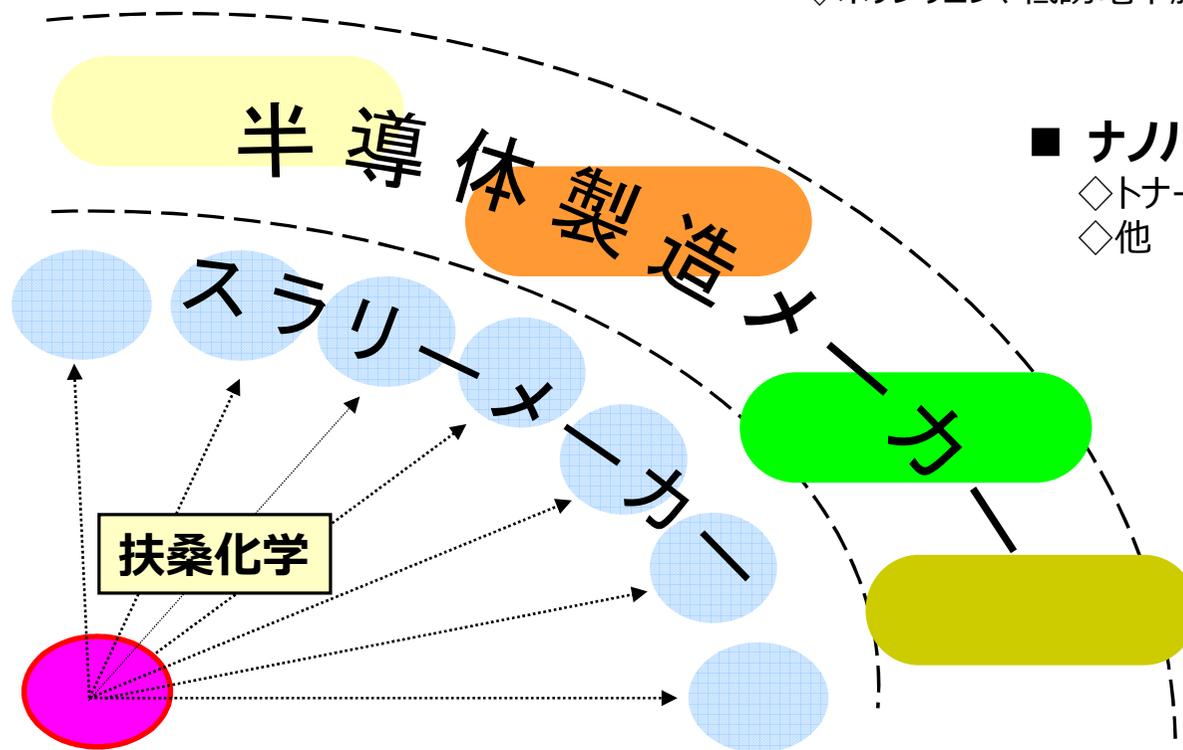
■ ナノパウダー

- ◇トナー用途
- ◇他

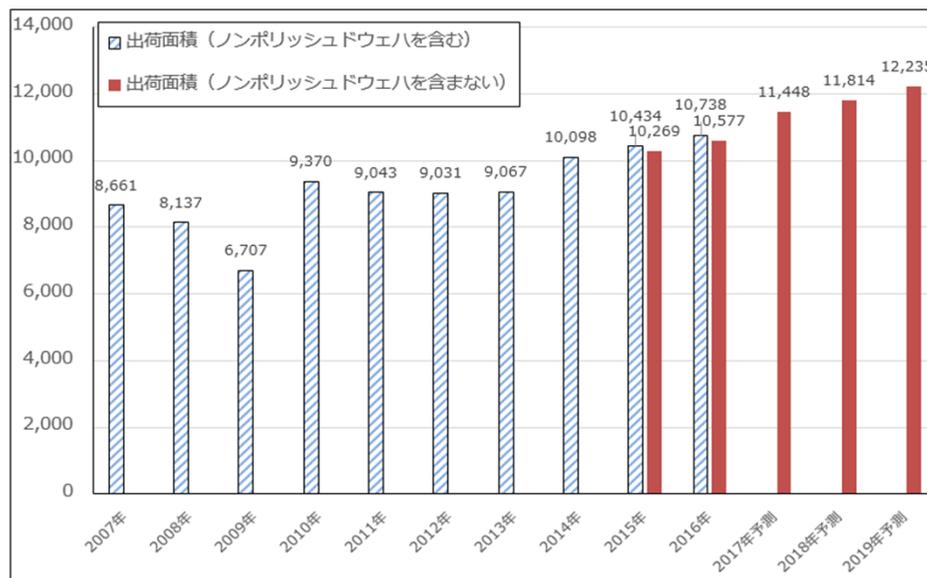


■ 新規用途への開発

- ◇フォトマスクブランクス研磨
- ◇ナノファイバー、添加剤



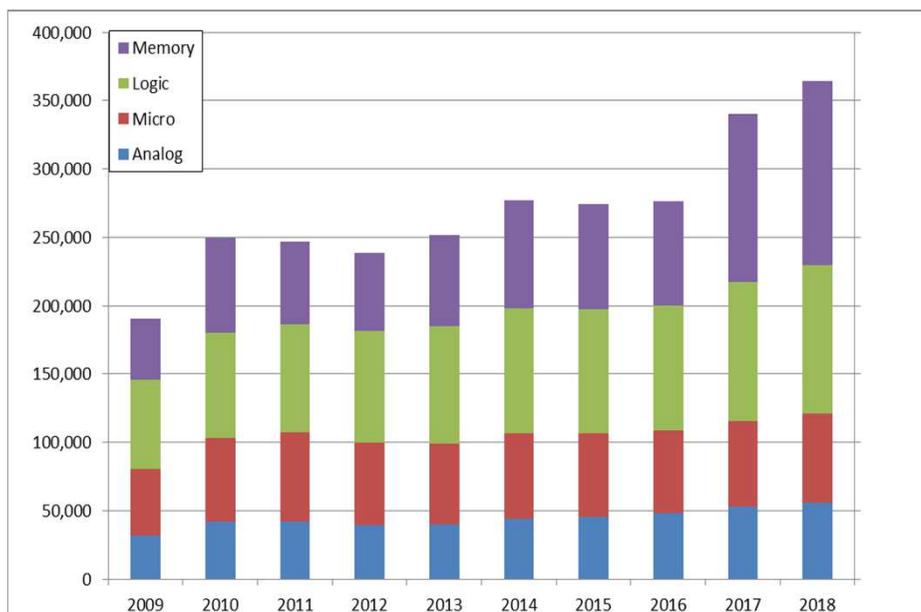
ウエハ&半導体市場予測



◆ シリコンウエハ市場予測

年平均3.4%増 (CY17-CY19)

出典：楽天証券 (予測はSEMI)



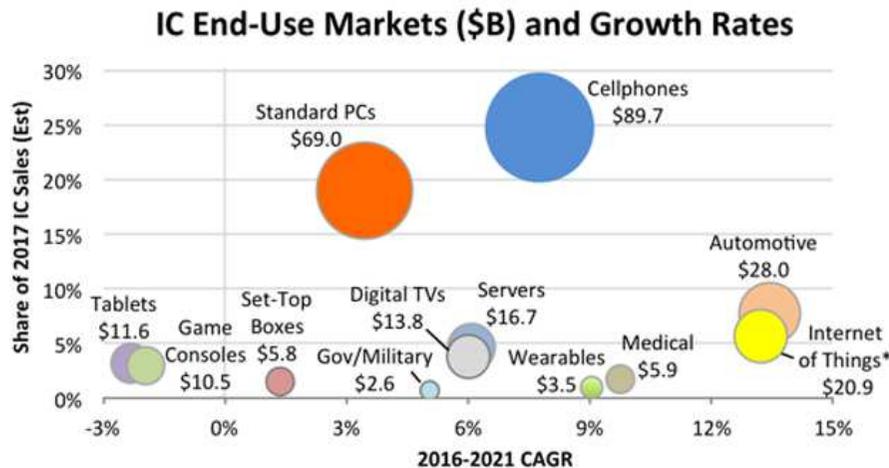
◆ 半導体市場予測

Gartner :7.5%増 (CY18)

WSTS :7%増 (CY18)

メモリ市場は年平均32.3%の急増を予測 (CY16-CY18)

出典：WSTS 2017年秋季半導体市場予測より

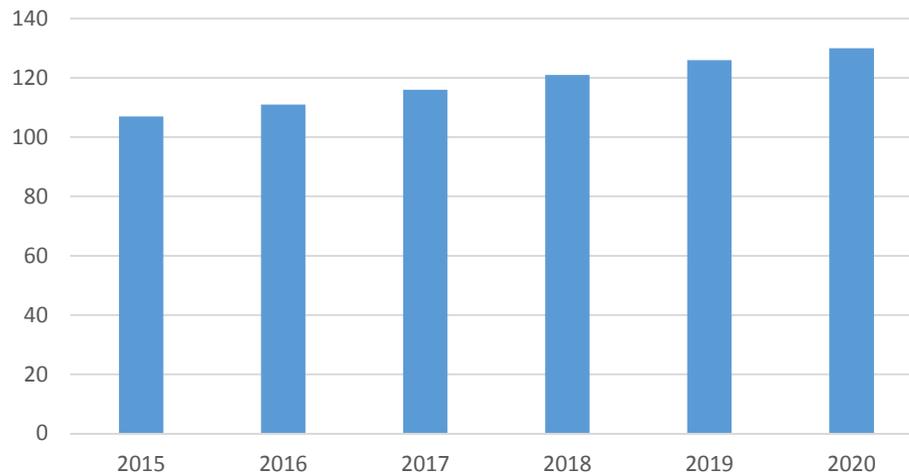


*Covers only the Internet connection portion of systems.
Source: IC Insights

IC Insights: 車載、Iotがけん引

前回の予測に比べて・・・
自動車向け 10%→13%
スマホ向け 10%→13%

CMPスラリー世界市場



・CMPスラリー市場予測（当社推定）

ロジックデバイス配線層数の増加
Cu配線用デバイス市場拡大
メタル系スラリー（Cu W）にはコロイダルシリカが使用
さらに酸化膜研磨においても一部コロイダルシリカが使用される見込み

◆ 年平均7%～8%の拡大を見込む

- IoTの加速化に伴う半導体需要やサーバー向け大容量メモリ等への半導体需要拡大
- 電気自動車向け、自動運転用の半導体需要増
- 世界のスマートフォンの普及は拡大し、年間の出荷台数は15億台を超える

◆ 微細化及び3次元化が進む

- Samsung/TSMCの先端技術主導権争いが激化
- 2018年に、各社シングルナノプロセスの立ち上げ計画
- 3D NAND技術の進化
- ロジック：7nm世代は22nm世代と比べ 1.5倍の研磨工程となる3D NAND技術の進化
- メモリー：3次元化でW研磨工程は約2倍に

◆ 中国での半導体製造が本格化

- 中国政府主導で、半導体の内製化に莫大な投資
- 2030年までに世界トップクラスの半導体メーカーを数社育成
- 半導体自給率を2025年度までに70%に

- ◆ シングルナノに対応し、他社の追随を許さない商品の開発
 - ・ 開発体制を更に強化
 - ・ 生産設備への積極投資
 - ・ 扶桑独自の生産技術を更に高度化

→ スピード、選択と集中、人材確保

- ◆ 「一極」から「多極」への脱皮
 - ・ 東京研究所を強化、早期の新商品上市、採用

→ 研究員の増員、即戦力化

- ◆ 中国でのコロイダルシリカビジネス展開
 - ・ 中国市場拡大を遅滞なく捕捉
 - ・ シリカのラインナップを増やし中国営業を強化

→ 「青島扶桑精製加工有限公司」の活用

◆ 稼働率向上

- ・勤務体制の変更
- ・定期修繕期間・作業の見直し
- ・既存設備増産体制
- ・出荷体制強化

◆ 中長期人材計画

- ・生産設備増設、間接部門増員
- ・3年間で2割増員
- ・毎年の定年退職者数減の補充

◆ 原材料購入施策

- ・調達の安定性向上
- ・価格競争力の確保

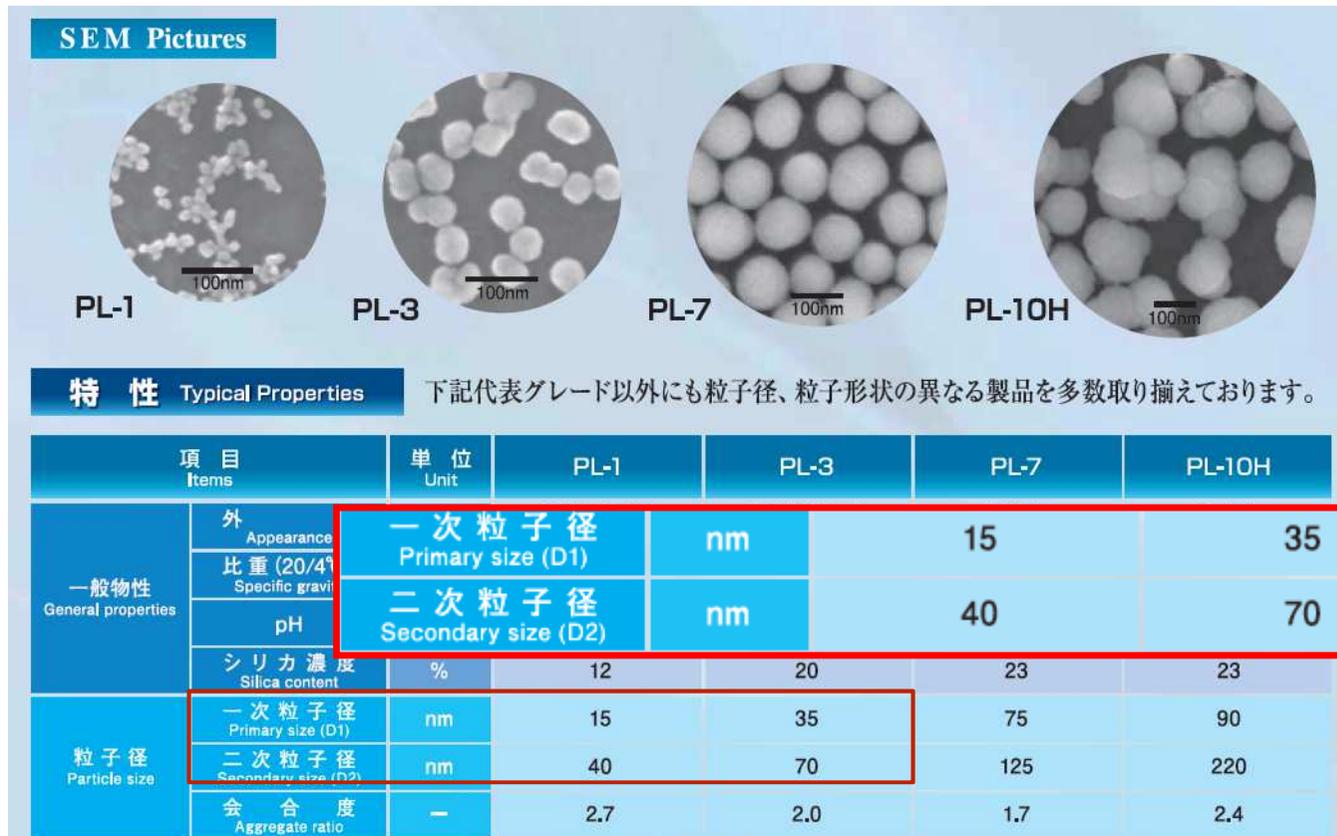
◆ 環境負荷軽減

- ・省エネルギー
- ・省資源
- ・廃棄物削減



1. 粒子径及び形状制御技術

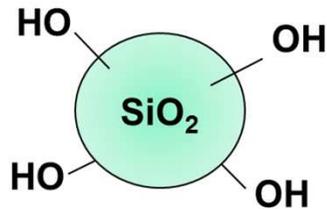
- 迅速な分析体制の構築
- 新規粒度分布測定装置の導入
- 業務効率化可能な品質管理導入



PL-1-D ← PL-3-D

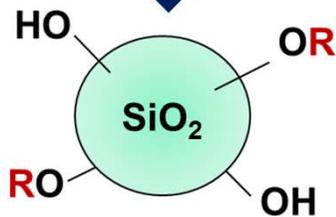
微小化の動きが早い

2. 表面改質技術



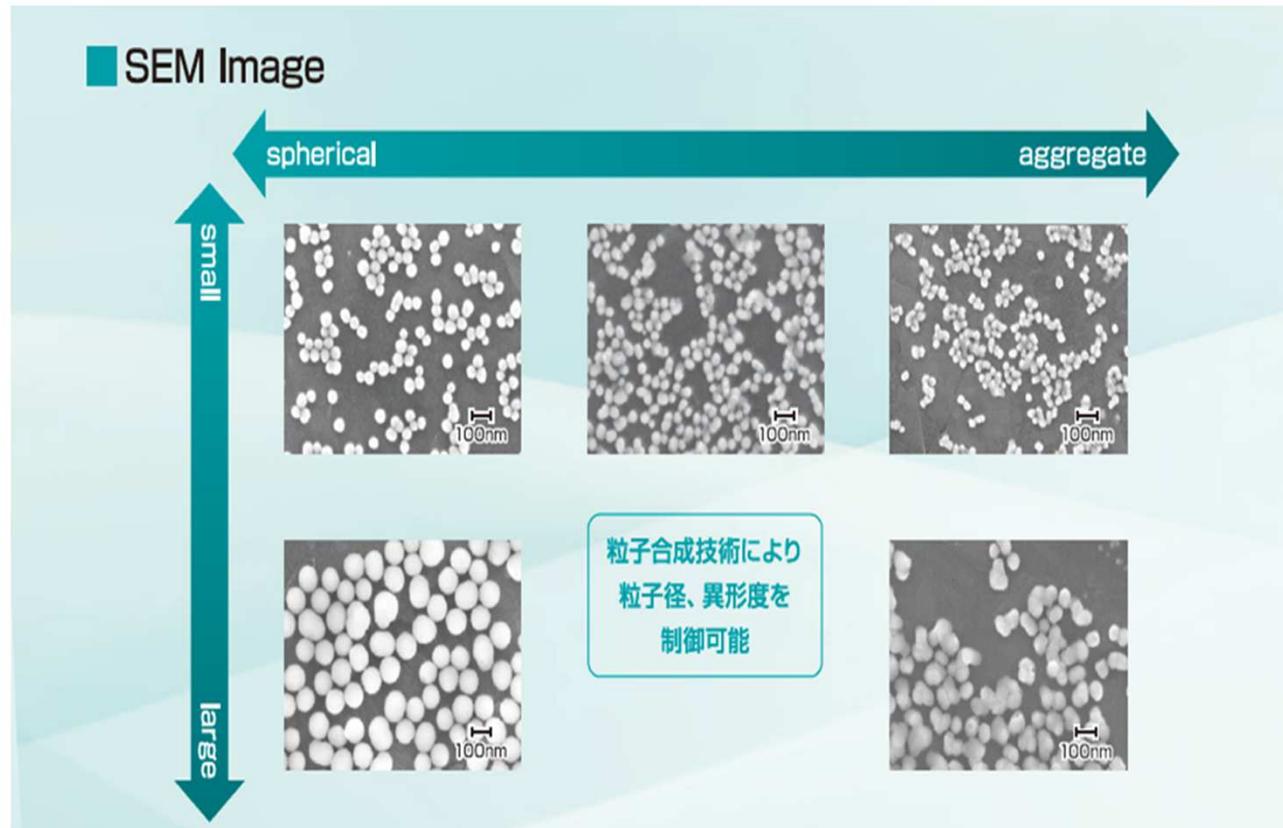
- 酸性条件化では不安定
- 有機溶媒への分散性が悪い

表面改質



- 酸性条件化でも安定
- 有機溶媒への分散性向上
- 疎水性付与により
パウダー化が可能に

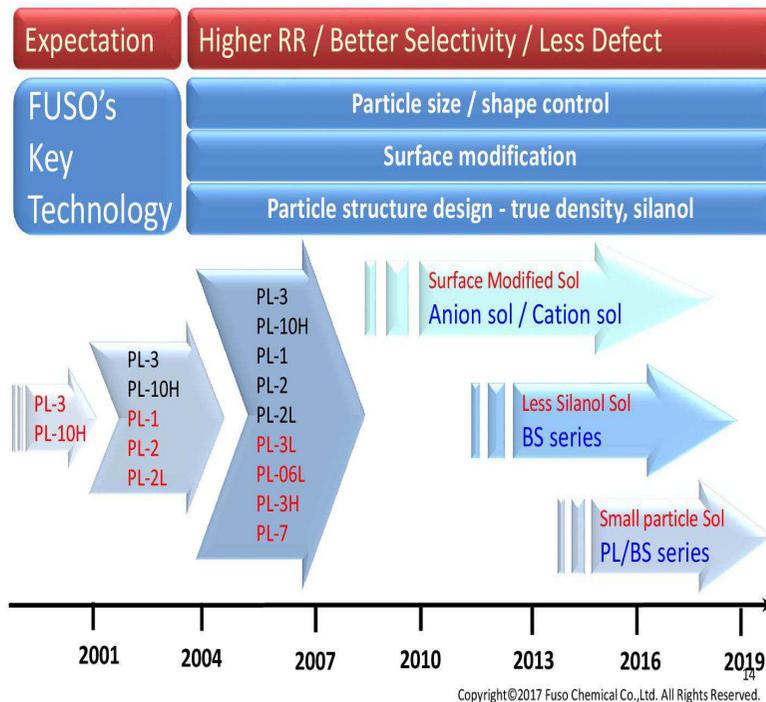
3. シリカパウダー合成技術



生産技術の高度化



扶桑化学のコロイダルシリカ開発ロードマップ



進化し続けるコロイダルシリカ

技術：新コンセプト粒子開発

- ★ 最先端素材対応
- ★ 高研磨レート、高スループット

生産：最先端設備導入

- ★ シングルナノ配線幅にいち早く対応
- ★ 高効率、低コスト生産

評価：最新鋭の評価機器導入

- ★ 粒度分布、表面状態、研磨特性
- ★ 顧客評価との相関、精度向上

資源：研究開発投資

- ★ ニーズに対応した製品を継続的に開発

開発体制の強化

1. 商品開発部 (京都事業所内)

コロイダルシリカ

- ・半導体向け研磨材の開発拠点
- ・生産と連携した迅速な開発体制

2. 東京研究所 (神奈川サイエンスパーク内)

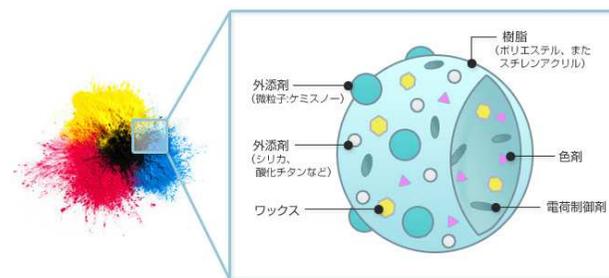
- ・新規開発の中心的役割を果たす
- ・東京研究所の開発の効率化・加速化
- ・拡張・研究員増員



(東京研究所が入居するKSP外観)

ナノパウダー

- ・コア技術によるバリエーション展開
- ・トナー外添剤用途で採用拡大

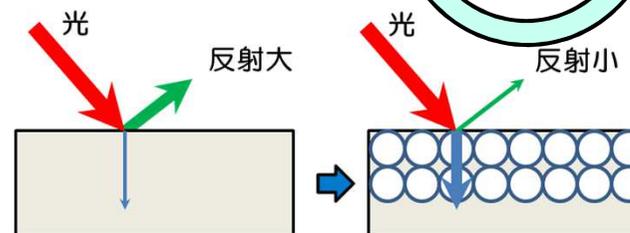


中空シリカ

反射防止用途

断熱用途

中空
ナノシリカ

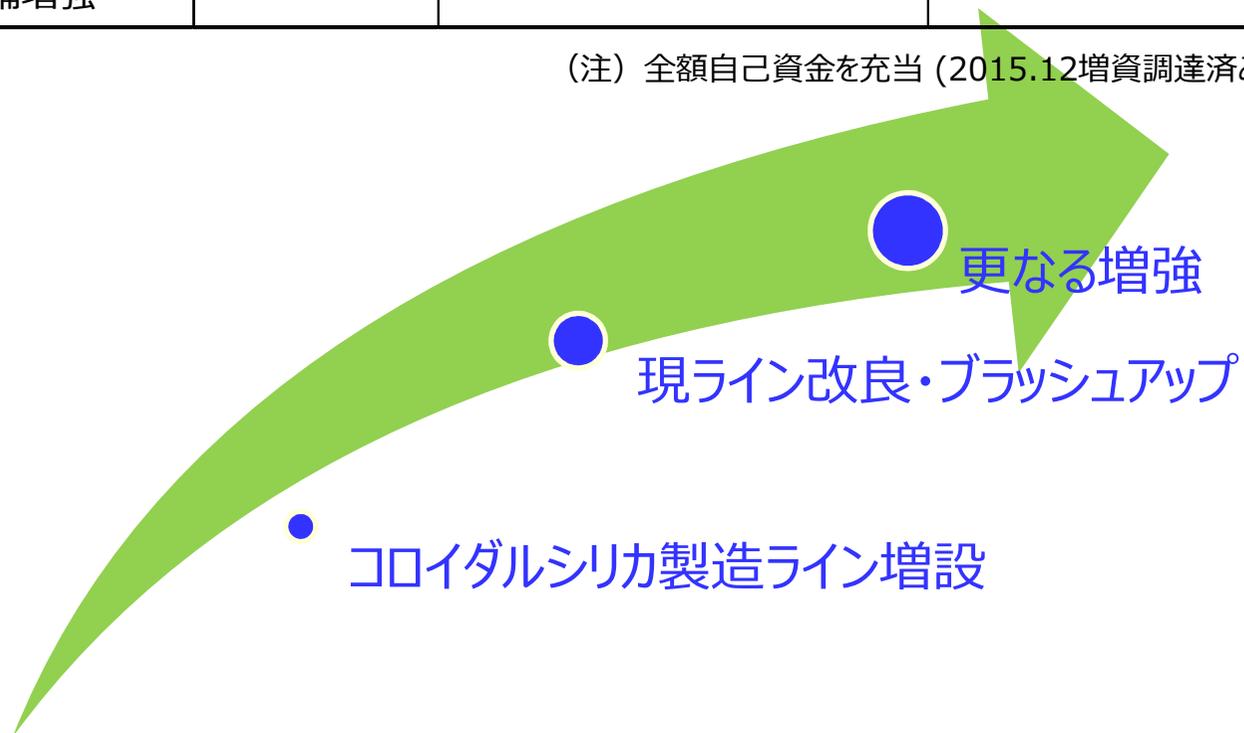


21

◆ 京都工場を世界一のコロイダルシリカ生産工場に！

製造ライン増設 (1)	48 億円	2018年 9月 稼働予定	◆シングルナノ配線への対応 ・世界最高水準の設備導入 ・品質のさらなる安定化 ◆コスト削減・品質向上 ・自動化 ・効率的生産、生産効率最大化
製造ライン増設 (2)	74.5 億円	2018年11月 稼働予定	
増産に伴う 設備増強	6 億円	2019年 7月 完成予定	

(注) 全額自己資金を充当 (2015.12増資調達済み資金を含む)



◆ 損益計画

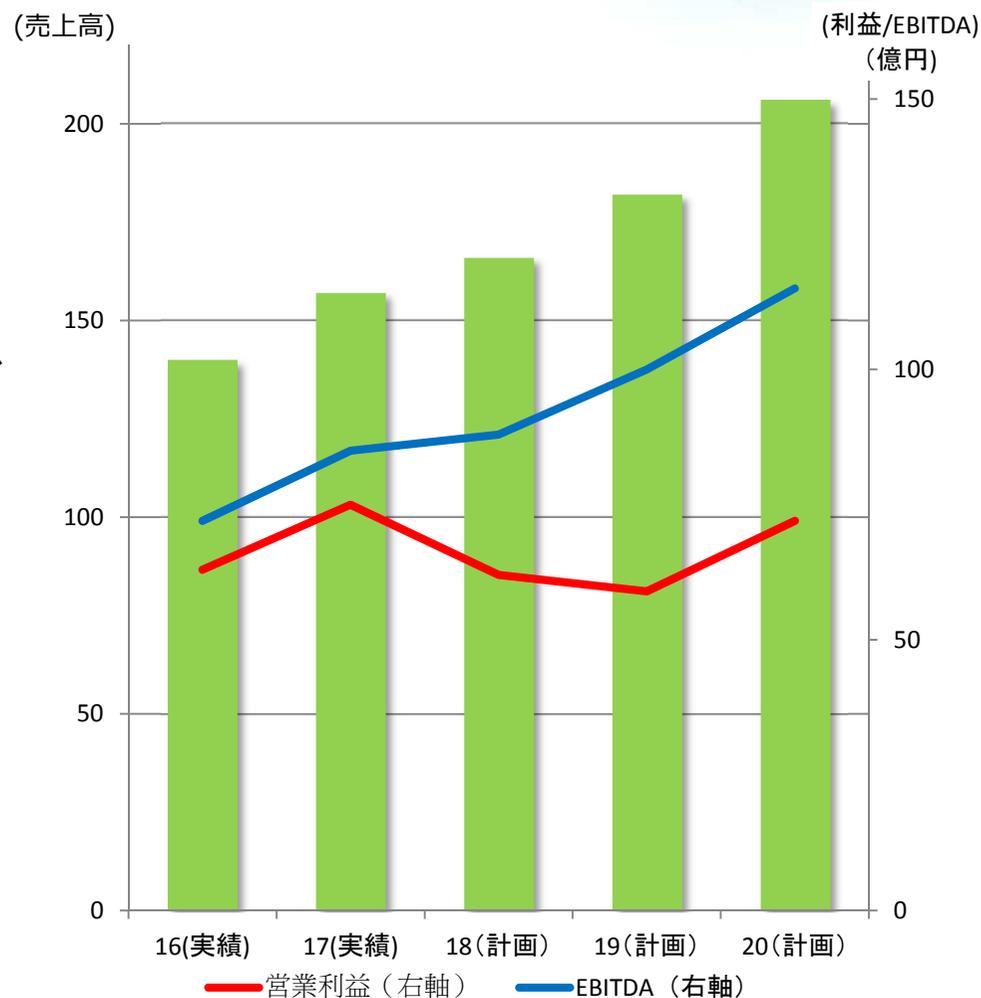
- 基本方針（2017年計画時）
 - ・ 今後数年間で設備改良、増設に約180億円を投資
 - ・ 一時的に営業利益率は低下するが、EBITDAは増加を見込む

2018年度～目標

- 2020年度には
 - ・ 売上高200億円以上（単体）
 - ・ EBITDA113億円を目指す。



EBITDA **115**億円



Ⅲ. 2019年3月期業績予想

設備投資計画進捗状況



- ◆ 競争に勝ち残る最先端工場
- ◆ 当初計画より前倒しで立上げ
- ◆ Speed, Cost, Quality

(注) 全額自己資金を充当 (2015.12増資調達済み資金を含む)

セグメント	事業所	設備の内容	投資予定総額 (百万円)	着手 (年月)	完了 (年月)
ライフサイエンス事業	鹿島事業所	リンゴ酸製造設備新設	5,800	2017年11月	2019年7月
電子材料および 機能性化学品事業	京都事業所	超高純度コロイダルシリカの 製造ライン増設および改造	4,800	2016年10月	2019年1月
		超高純度コロイダルシリカの 製造ライン増設	8,050 (内訳) 7,450 600	2017年6月 2018年1月	2019年3月 2019年7月

・前回開示内容からの変更

2018年9月予定

2018年11月予定

1. 京都第1工場



2016年10月から着手した増設工事は、いよいよ最終段階に入り、秋からは試作品を生産できる見込みです。

2. 京都第2工場



更なる能力増強のために、2017年4月に着手した工事も順調に進捗しており、年内の迅速な立上げを目指しています。

1. 有機酸プラント



2017年11月から
鹿島事業所としてスタート。
無水マレイン酸、フマル酸を
製造販売。

2. リンゴ酸プラント建設



2019年7月の完成を目指して、
建設工事を進めています。現在、
計画通りに順調に進捗しています。

償却額見込



- ◆ 電子材料事業部門 : 2018年度第3Qより増加。2019年度最大に。
- ◆ ライフサイエンス事業部門 : 2019年度第2Qより増加。

(単位：百万円)

セグメント	2017年度 実績	2018年度 計画	2019年度 概算見込	2020年度 概算見込
ライフサイエンス事業部	545	700	1,200	1,700
電子材料事業部	1,040	2,600	4,600	3,900
共通	26	20	20	20
連結合計	1,613	3,320	5,820	5,620

* 工事完了時期、追加費用、計画変更等に伴い、概算金額変動の可能性有り。

業績予想



- ◆ 2020年以降の事業基盤構築・事業拡大に向け、設備投資を実行
- ◆ 償却前利益額（EBITDA）の最高益更新を継続

計画
前提

- ・年間為替レート ¥ 110円想定
- ・果実酸等、価格改定

前年
実績

- ・年間為替レート ¥ 110円
- ・原材料費の上昇

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019.3 計画	43,000	6.9	9,350	△11.3	9,450	△8.9	6,450	△2.2
2018.3 実績	40,221	11.0	10,537	6.8	10,367	3.3	6,592	△4.4

(% : 対前年度同期増減率)

2019年3月期 通期業績予想



(単位：百万円)

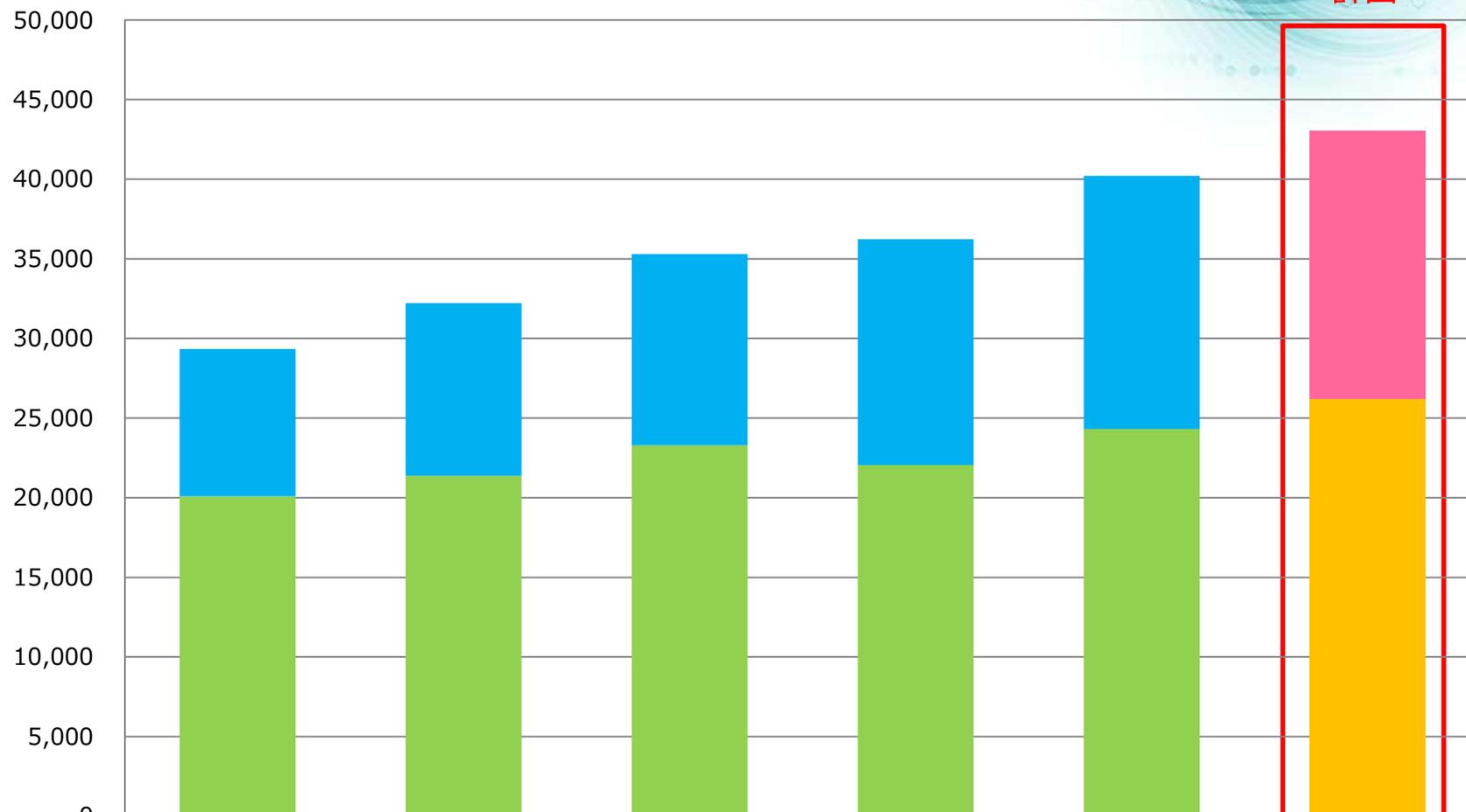
	'18/3期 上期 (実績)	'18/3期 通期 (実績)	'19/3期 上期 (計画)	'19/3期 通期 (計画)
売上高	19,579	40,221	21,100	43,000
ライフサイエンス事業	11,794	24,318	12,700	26,200
電子材料および 機能性化学品事業	7,785	15,902	8,400	16,800
営業利益	5,424	10,537	5,200	9,350
ライフサイエンス事業	1,674	3,382	1,600	3,550
電子材料および 機能性化学品事業	4,327	8,280	4,250	7,050
(調整額)	△577	△1,125	△650	△1,250
経常利益	5,445	10,367	5,250	9,450
当期純利益	3,767	6,592	3,600	6,450
償却前営業利益	6,063	12,150	6,310	12,670
一株当たり当期純利益	106.1 円	185.6 円	101.3 円	181.6 円

セグメント別売上高推移



計画

(百万円)



	'14/3	'15/3	'16/3	'17/3	'18/3	'19/3 (計画)
■ 電子材料および機能性化学品事業	9,237	10,853	12,012	14,174	15,902	16,800
■ ライフサイエンス事業	20,090	21,370	23,285	22,050	24,318	26,200

セグメント別営業利益推移



(百万円)

14,000

12,000

10,000

8,000

6,000

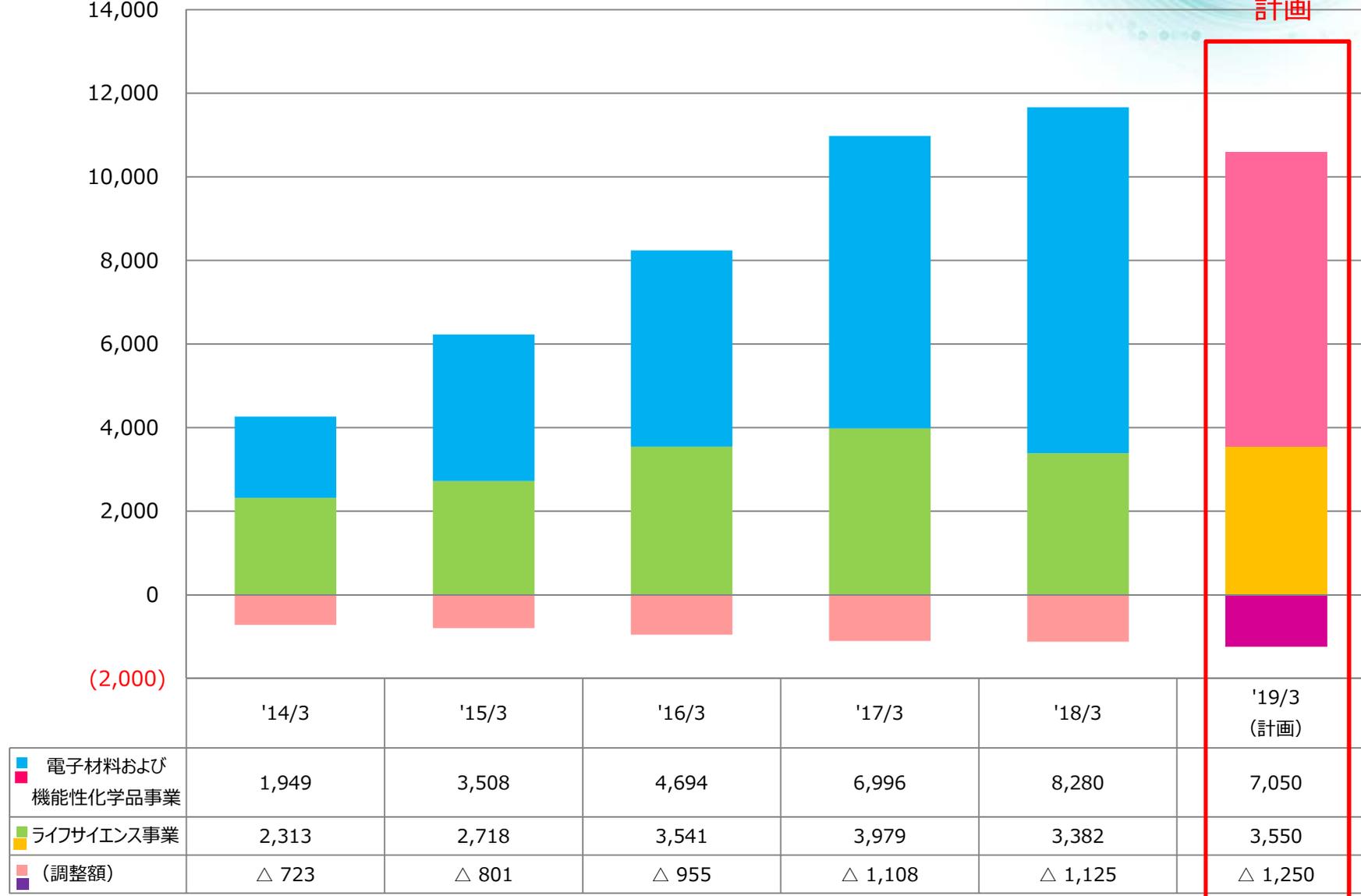
4,000

2,000

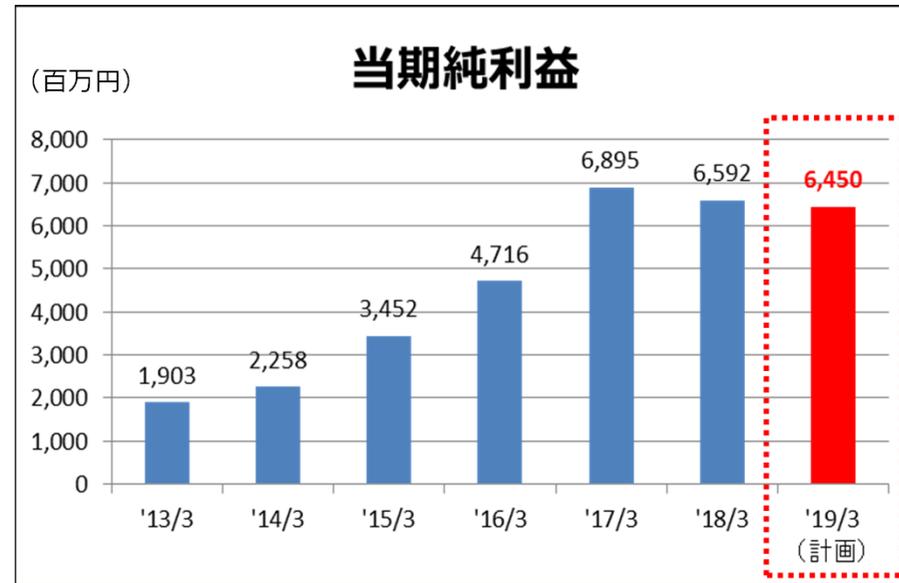
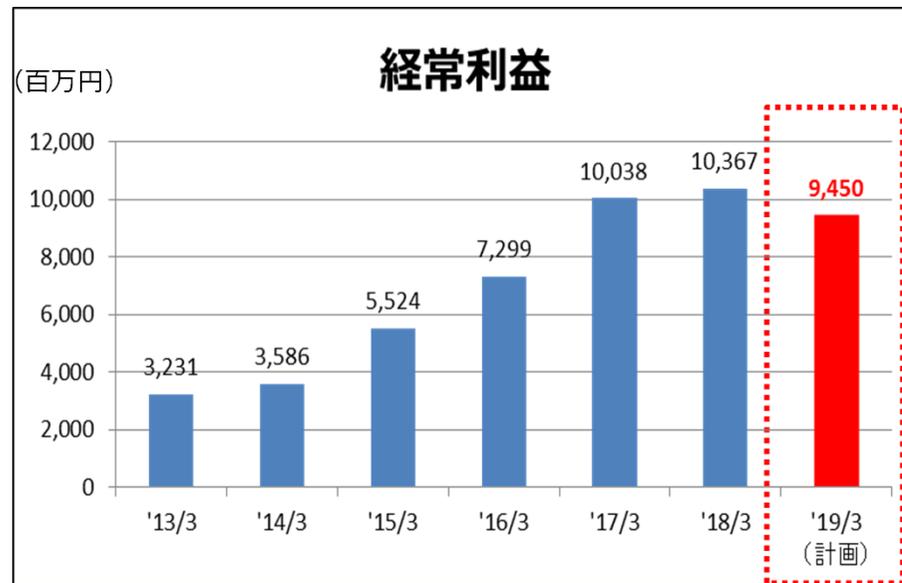
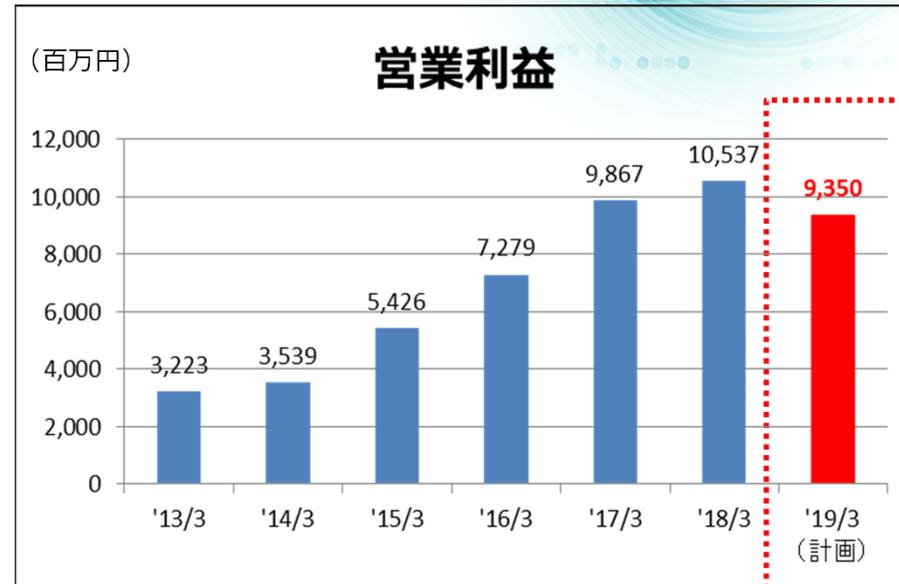
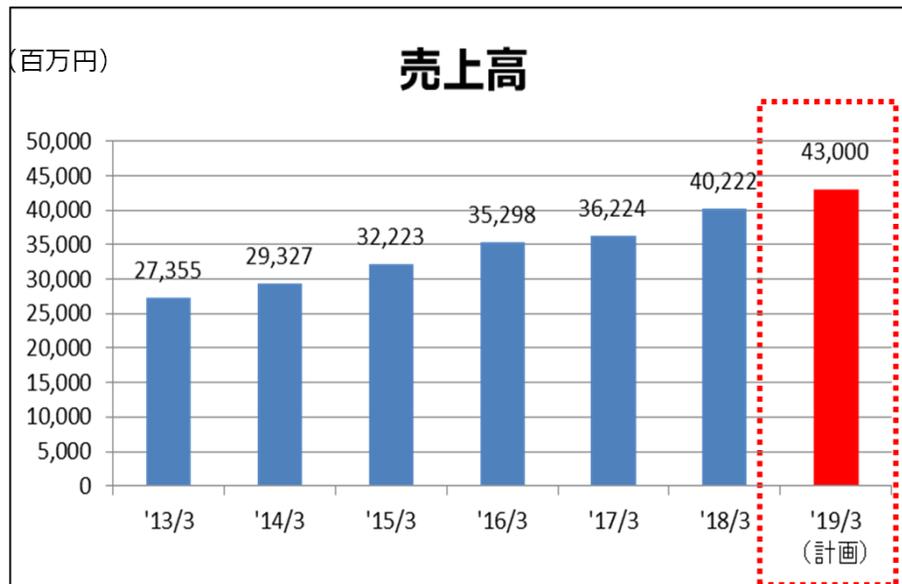
0

(2,000)

計画



業績推移および計画

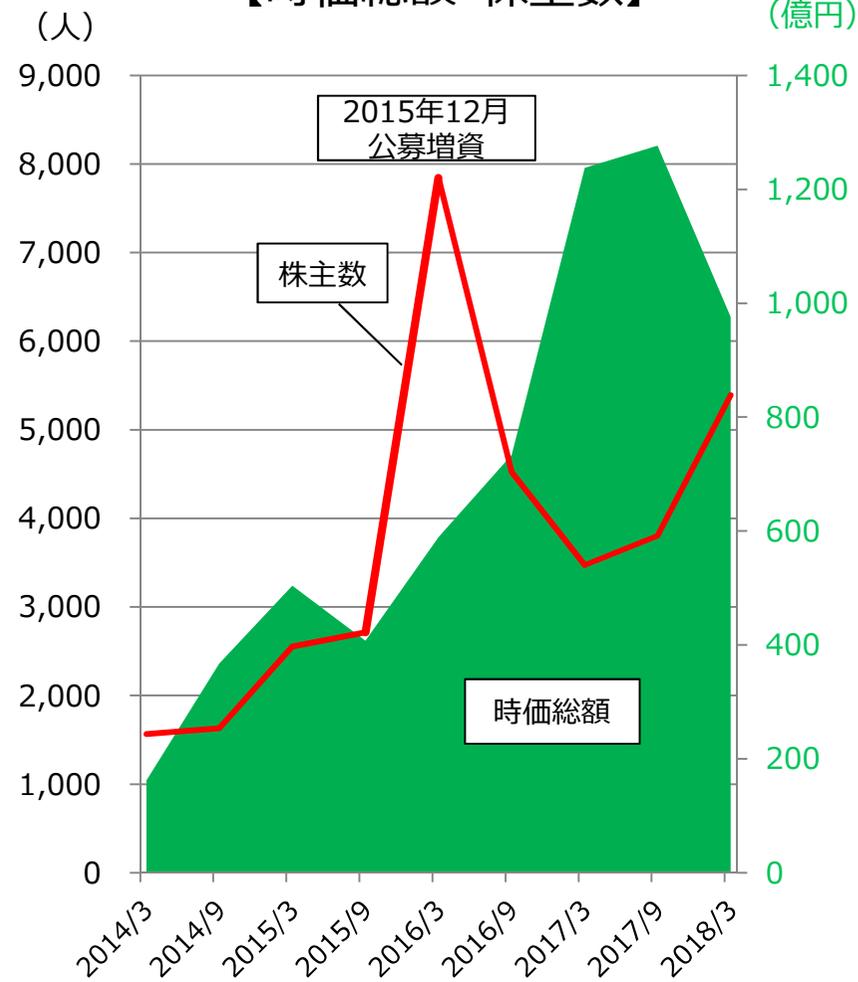


I. 株価推移

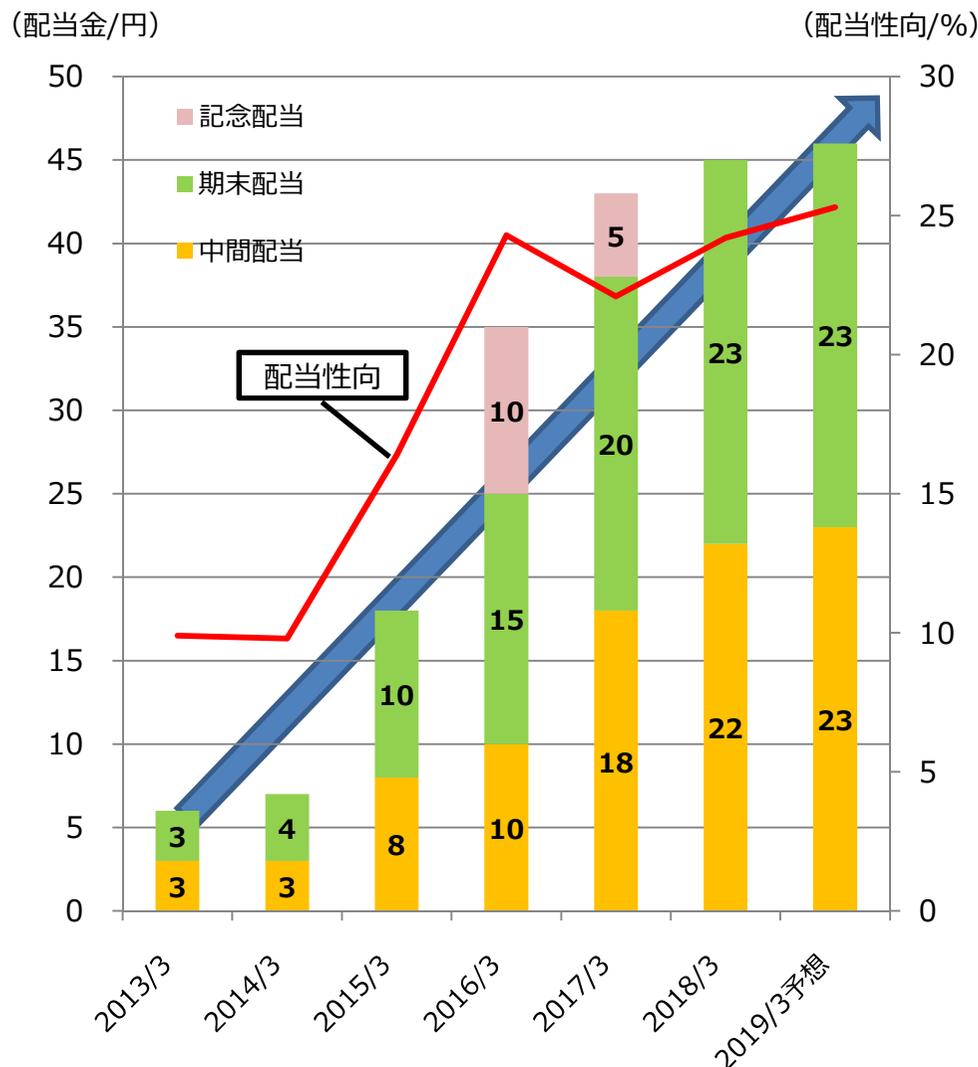
【2016年4月～2018年3月】



【時価総額・株主数】



Ⅱ. 配当金



6期連続増配予定

- **2019年3月期：増配予想**
 - ・普通配当金46円
(中間配当23円、期末配当23円)
- **2018年3月期：増配**
 - ・普通配当金45円
(中間配当22円、期末配当23円)

* 6年間で約7倍

E **S** **G** **環境改善活動_省エネ優良事業者 (Sクラス)**
大阪市女性活躍リーディングカンパニー
行動規範全面改訂、「監査等委員会設置会社」移行予定



「意欲のある女性が活躍し続けられる組織づくり」「仕事と生活の両立（ワーク・ライフ・バランス）支援」「男性の育児や家事、地域活動への参画支援」について積極的に推進する企業として、大阪市より「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」に認証されました。（2018年2月）

経済産業省へ省エネ法の定期報告を提出する全ての事業者を4段階の「事業者クラス分け評価制度」においてこれまでの省エネの取り組みが認められ、特に省エネの取組が進んでいる優良事業者としてSランクの評価を受けました。（2017年5月）



**工場・事業場における省エネ法定定期報告（平成28年度提出分）
に基づく事業者クラス分け評価の結果**

標準産業分類 中分類	特定事業者番号	主たる事業所の所在地	事業者等名	省エネ評価		ベンチマーク達成分野
				27年度	28年度	
16 化学工業	0026151	大阪府	扶桑化学工業株式会社		☆	

（経済産業省資源エネルギー庁HP抜粋）

本資料に記載されている、将来の見通しに関する記述・数値は、グループ各社の現時点での入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、リスクや不確定な要因も含まれており、その達成を当社として約束するものではありません。

また、実際の業績等は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、為替動向等、様々な要因により、大きく異なる可能性があります。